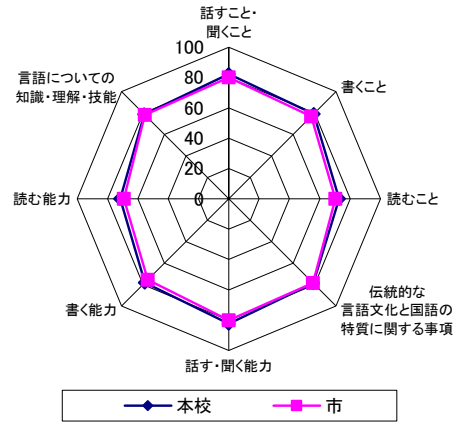


宇都宮市立豊郷中学校 第3学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	82.3	80.1	77.9
	書くこと	79.1	76.8	65.3
	読むこと	72.7	70.3	66.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	78.8	78.3	74.3
観点別	話す・聞く能力	82.3	80.1	77.9
	書く能力	78.3	75.6	64.2
	読む能力	71.6	69.2	65.4
	言語についての知識・理解・技能	78.9	78.4	73.8

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	平均正答率は82.3%と市の平均80.1%をわずかに上回っているが、ほぼ同じようである。しかし、前年度を大きく下回っている。内容的にも、聞き取ることは高い正答率であるが、自分の考えを述べるといった「書き」の内容がくわわると、30ポイント以上の差が見られる。 ○「話し合いの内容の聞き取り」においては、正確に聞き取るだけでなく、聞き手に理解してもらうための話し方の工夫を聞き取ることができている。 ●司会者等の役割に関しては、その工夫などを聞き取る点で全国平均・市の平均を5ポイント以上下回っている。自分の考えを述べることに限っては、市・全国の平均を上回ってはいるものの、64.4%と低い。	話すこと・聞くことの学習教材だけでなく、グループ学習などの機会を通して、司会者としての役割や、お互いの考えを伝える工夫や話し方・説明の仕方の工夫についても、継続的に指導する。
書くこと	平均正答率は79.1%と市の平均76.8%を2.3ポイント上回っている。「書く」ことに対する苦手意識はあまりないようである。 ○特に「作文」は条件を踏まえて、順序立てて自分の考えを書くことについては、80%以上の高い数値を示し、市及び全国の平均を大幅に上回っている。 ●「資料を集めて発表原稿を書く」など、社会生活の中から課題を決めて多様な方法で効果的に伝わるように材料を集めたり、説明や具体例を加えて書くことでは、54.7%と低い値である。	引き続き早い段階で、作文の書き方をしっかりと身に付けさせる。また、説明的文章や小説の読解などの授業でも、自分の立場を明確にした意見文を書いたり、理由や根拠を挙げて書くことを意識させた課題などを提示していきたい。また、意見文や資料を読み取っての作文指導も入試対策と絡めながら、書く機会を増やしていきたい。
読むこと	平均正答率は72.7%と市の平均は上回っているものの他の領域、観点と比べて低い数値であり、教科全体のバランスを崩している。 ○文学作品の内容読み取りは、ほぼ市の平均と同じである。説明文の読み取りでも、文章の展開に即して内容を捉えることは89.4%と高い。 ●「説明文の内容の読み取り」では、文章の構成や展開を捉えることに関して、非常に低く、市の平均よりも2ポイント下回っている。	説明文や文学作品等の長文読解では、文章に即した要旨を捉えること、登場人物の心情や情景描写に注目して読み取りを行わせたい。また、段落相互の関係や接続詞などにも注意して構成を捉える機会を増やしたい。 また、文章に触れるということで、読書活動の推進、更には選書についても学校図書館司書と連携して指導していきたい。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	平均正答率は、78.8%と市の正答率とほぼ同じである。しかし、出題内容によっては、90%以上の高い正答率のものもあれば、50.0%と市の平均を下回るものもあり、その差が大きい。 ○漢字の読み・書きについては、概ねしっかりと書くことができる。歴史的仮名遣いもほぼ理解されている。 ●漢字の訓読みが苦手であり、また、文法(用言の活用・助動詞)については、しっかりとした理解ができていないようである。同様に、類義語・対義語というような語句に関する知識が不十分である。	語彙力・漢字の読み書きの力は、教育活動全般に関わるものなので、今後も漢字の意味を理解させながら、繰り返し学習する機会を確実にとりたい。 文法に関しては、既習事項を忘れてしまうことが多いので、折りに触れて復習する機会を設けたい。更に、文法ノートを作ることで、絶えず文法学習の見直しができるようにし、継続的に学習が行われるようにしていきたい。

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの